

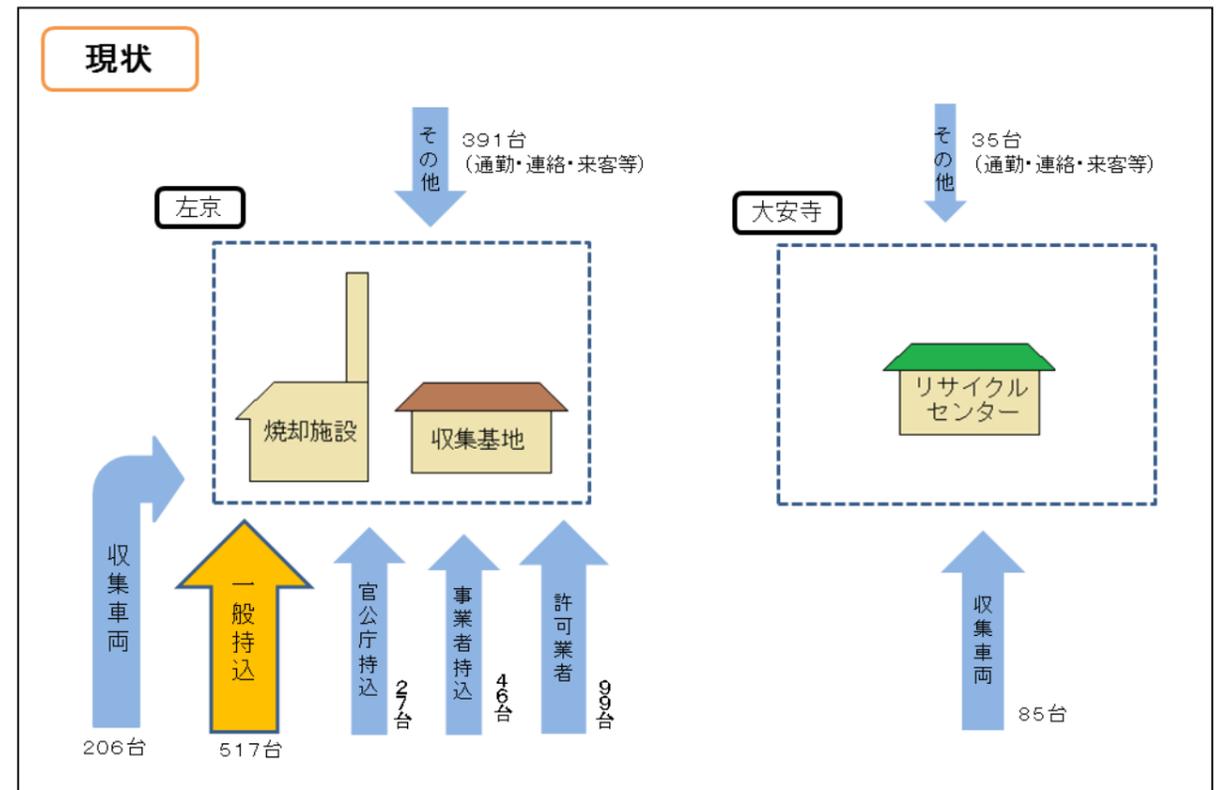
施設移転方法別通行車両数の比較表

(単位:台)

条件 車両種別	①	②	③	④
	全てを候補地に移転した場合	収集基地を他所に置き市民持込みもそこで受ける場合	収集基地・リサイクルセンターを他所に置く場合 (焼却施設のみを移転)	③に加え、リレーセンターを他所に設けた場合
収集車両等(灰搬出等含む)	291	291	206	58
一般持ち込み車両	517	0	0	0
官公庁持ち込み車両	27	0	0	0
事業所持ち込み車両	46	0	0	0
許可業者	99	99	99	0
※ 収集車以外台数	426	76	41	41
東部からの車両台数を控除	-60	-20	-20	-20
合計	1,346	446	326	79

※ 環境清美センター従事職員(再任用・臨時等含む)、親の会関係者、事務連絡車、一般来客者等含む車両

施設移転方法別通行車両数の比較(現状)



収集運搬コスト比較(平成32年度目標値より)

	現在と同じ収集体系をとった場合に増加するごみ収集運搬コスト 百万円/年	リレーセンター 維持費 百万円/年	リレーセンター 建設費 百万円	30年間に増加する 収集運搬コスト集計 百万円/30年
条件①	A × 0.2 390			11,700
条件②	A × 0.2 390			11,700
条件③	$390 \times \frac{206}{291} + 0 \times \frac{85}{291}$ 270			8,100
条件④	0	200	2,500	8,500

候補地(⑥-1、⑥-2)への収集運搬コストは、現状の収集運搬コストよりも2割増として計算する。

(策定委員会試算)

条件③の場合は、搬入車両1日当たり291台のうちリサイクルセンターへ行く85台(大型ごみ・リサイクル品)を除いた206台(燃やせるごみ・燃やせないごみ・プラスチック等容器包装の搬入車両)が候補地への搬入と想定しての計算。

A: 環境清美工場への収集運搬コスト

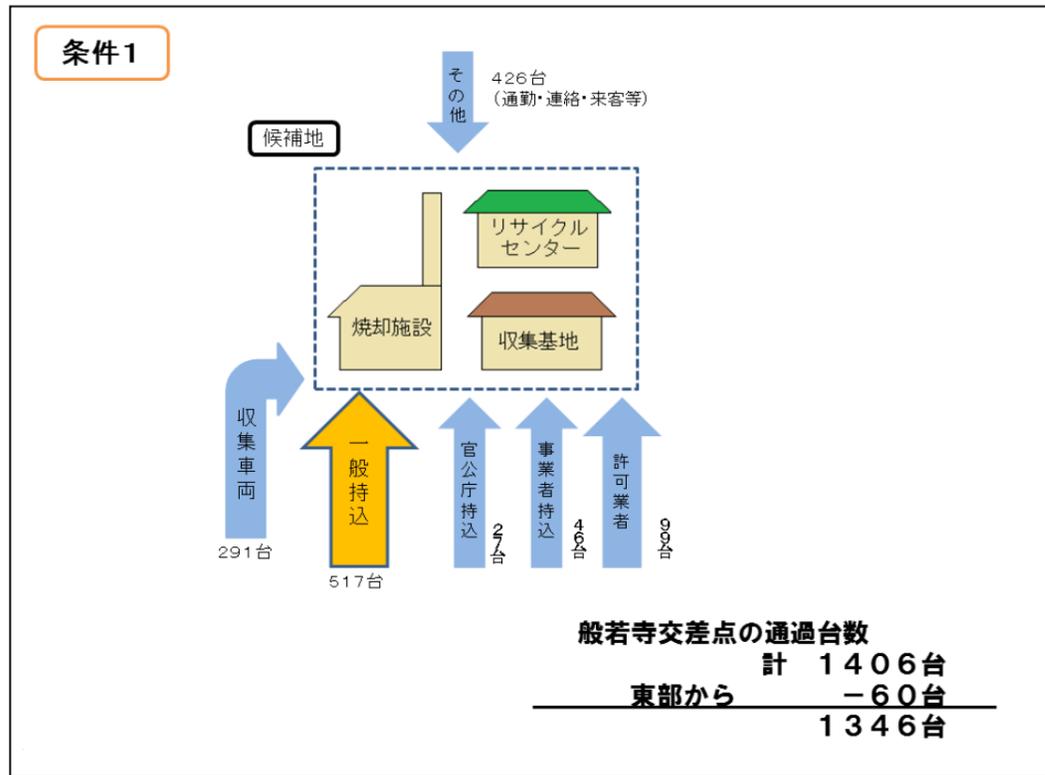
平成22年度収集関連経費: 2,170百万円/年

平成22年度奈良市家庭系ごみ総収集量: 66,786.2t/年

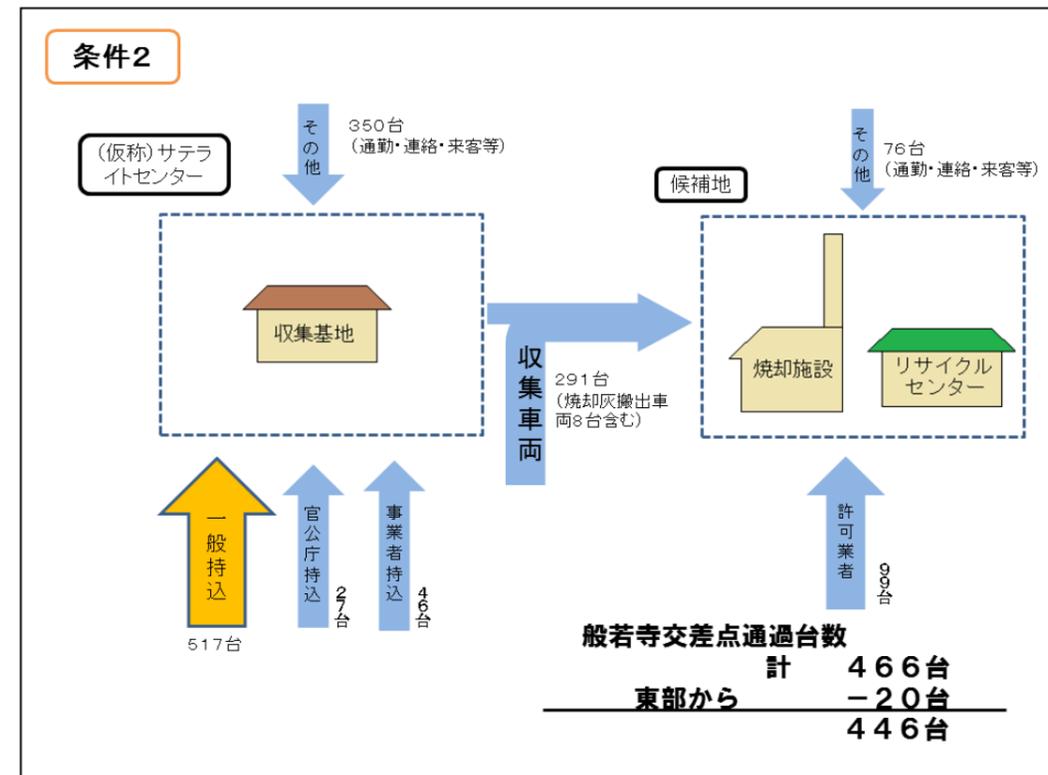
平成32年度奈良市家庭系ごみ等減量目標値: 60,037t/年

$2,170(\text{百万円/年}) \times 60,037(\text{t/年}) / 66,786.2(\text{t/年}) = 1,951(\text{百万円/年})$ 改め1,950(百万円/年)

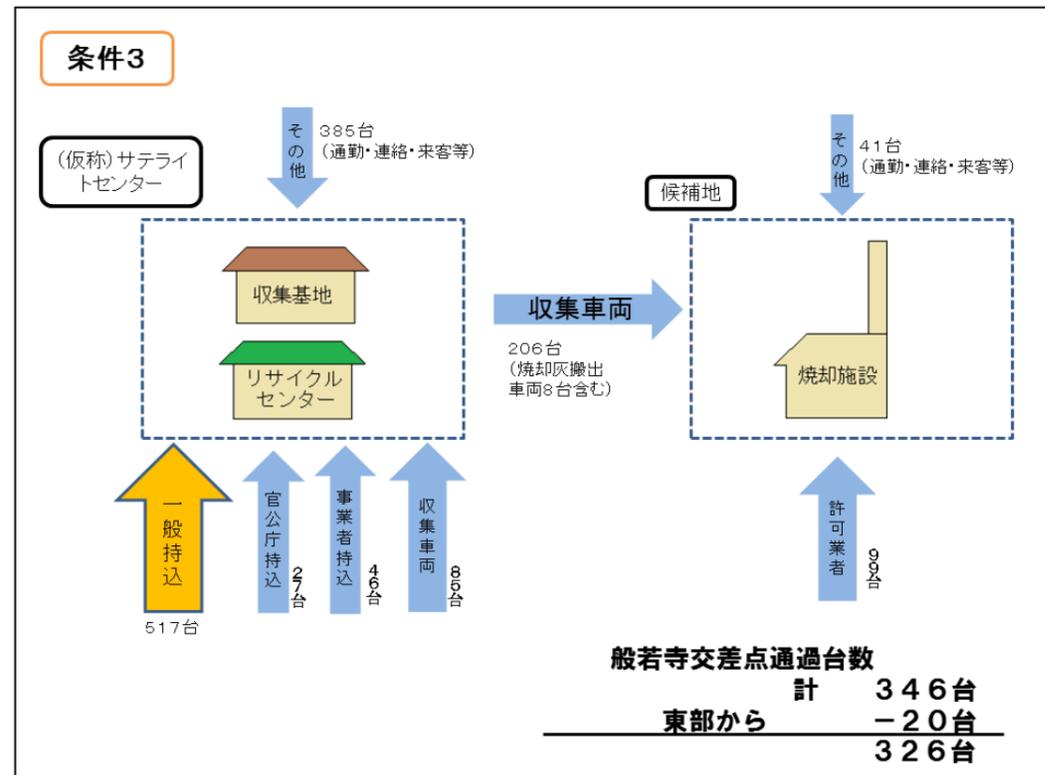
施設移転方法別通行車両数の比較(条件1)



施設移転方法別通行車両数の比較(条件2)



施設移転方法別通行車両数の比較(条件3)



施設移転方法別通行車両数の比較(条件4)

